

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190800017		
法人名	ギホク株式会社		
事業所名	グループホームききょう		
所在地	岐阜県山県市東深瀬505番地の2		
自己評価作成日	平成21年12月8日	評価結果市町村受理日	平成22年 2月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2190800017&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 んふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様がごくごく普通に生活ができるようにお手伝いさせていただいています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者が、慣れ親しんだ地域の中で、普通の生活ができることを、理念に掲げ、全職員で共有しながら実践している。経験豊かな看護師を配置し、健康・医療面での安心と、利用者が今までの暮らしを継続できるように、自己選択を尊重し、可能性を引き出し、喜怒哀楽を表出できる環境づくりをしている。利用者一人ひとりには、かけがいのない人生があるので、それを実感してもらい、周囲の人々からも大事にされているということが伝わるように支援している。利用者からは、此处で最期まで暮らしたいとの思いが聞かれ、職員は離職者も少なく、自分たちも入居したいと思えるホームを目指し、日々サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちが、入居したいと思えるようなホームにしよう」という理念を職員及び管理者が共有しています。	地域社会とのつながりを持ちながら、普通の生活を支えることを理念に掲げ、自分たちも入居したいと思えるように、日々実践している。利用者の中から、何時までも此処で暮らしたいとの声が聞かれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所の方々からは、散歩のときに声をかけて頂いたりしています。	町内の溝掃除に協力し、会合にも参加している。ホームは、祭り神輿のコースになっていたり、近隣からは、日常的に野菜や菓子などの差し入れがある。また、町内の老夫婦が、講演と大正琴のボランティアで、頻繁に訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所までこられて相談を受けることはありませんが職員等が地元なので個人的に相談を受けたりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、関係機関、自治会長、民生委員、家族代表の方々に出席していただき、いろいろな意見をいただいています。	運営推進会議は、3ヶ月毎に開催し、運営状況全般について話し合われている。外部評価の改善課題、避難訓練、感染症対策、職員の研修、眠剤廃止の取り組みなどが、検討され運営に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険者連絡協議会等に参加しています。	2ヶ月毎に市の主催するケアマネジャー会議に必ず参加している。また、市の介護相談員が毎月訪れ、サービス改善に助言を受けている。ホームからは、空き室情報や事故報告、加算申請などで相談し、指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者が各種講習会に参加し、職員会議において伝達しています。	内部学習会の機会に、身体拘束をしない取り組みを周知徹底している。真にやむを得ない場合があり、家族の承諾を得て、実施した事例があったが、原則禁止を守り、玄関の鍵も開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護推進員の研修に管理者が参加し、職員に研修で得た事を伝えています。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員の研修に管理者が参加し、職員に研修で得た事を伝えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の来所時に説明し、契約時に再確認をして、います。また、退所時にも相談を受けるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の雰囲気より管理者や職員がそれとなく話し合い、出来る限り不満がストレスにならないよう心掛けています。	利用者の思いは、雰囲気を読み取り、安心が得られるように努めている。家族の意見要望は、誠意を持って受け止め対応している。骨折予防に関することや、嫁の立場でストレスを抱えた悩みにも、相談に応じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体会議を開いて職員の意見や提案を聞くようにしています。	月例会議で職員の意見を聞く機会を設けている。必要な備品の購入、夜間排泄ケアの改善、服薬の誤りのない管理方法や、研修での勤務調整等が話し合わせ、運営に反映している。	自己評価の集約では、職員の意見が代表者に十分に届かない場合があるので、仕組みの再検討を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の離職は、開設3年で3名であり、開設時より職員の全体会議を食事会をかねて毎月行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護訪問員2級の養成講座を受講、受講者には、受講費の補助をおこなっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームの責任者等が集まりお互いに話し合いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者及びケアマネージャーが、面接時及び入所直後にいろいろと本人より話を伺うようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が認知症の親を在宅介護した経験より、家族の話を親身に伺うようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者及びケアマネージャーが、面接時に本人の状態を確認し、支援に対しての話し合いを行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の過去の聞き取り表を、職員に開示し性格など職員が共有するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所される都度、本人の状況説明と介護計画を確認し家族の思いを聞いて介護の方向を決めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の地区の敬老会に家族とともに参加されたりなじみの方が遊びにこられたりします。	馴染みの図書館に、月に2回行く人もいたり、時々、顔見知りの知人・友人が土産を持って訪れている。また、外出や馴染みの喫茶店への行き帰りには、自宅周辺を廻るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員同士の目配りなどで、利用者が孤独感を味わうことのない様に声かけをおこなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とあらばどんな事にも対応していこうと考えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事jや、おやつ等本人のペースに合わせておこなっています。	一人ひとりの思いは、入居時に基本情報シートで把握し、把握している。入居後に全く異なり、好き嫌いや思いが転換していることも多く、介護記録に書き込み、全職員が共有している。食べ物の好みの変化、帰宅願望から此処で何時までも暮らしたいとの気持ちの変化がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者・ケアマネの聞き取りひょうを職員に公開し全員が経過などを把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居当時は、様子を見て、本人の力を見極め、出来る事を少しずつ増やしていくようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議のときにケアプランと現状を考え、話し合い、本人にとってより良いプランを提供できるようにしています。	職員会議で、一人ひとりの状態を把握・評価し、本人・家族と話し合っ、介護計画を作成している。また、3ヵ月毎の定時見直しと、介護度変更後や病院から退院後などの状態変化時には、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌を作成し、日々の様子がわかる様にしてあり、日誌をもとにケアを考えています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の相談等に柔軟に対応しています。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方々には、運営推進会議に参加出席していただき、共に問題点等を共有していただいています、また、理容等におきましては、地元の方に来所していただき実施しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の月2回の往診、かかりつけの病院がある場合には、管理者が付添い受診しています。	家族の希望を受け入れ、かかりつけ医を協力医に変更しており、月2回の往診が行われている。専門科医の受診には、家族の都合が悪ければ、事業所職員が無償で送迎と付き添いを支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師がいます。バイタルチェックは、毎日行い利用者の健康管理をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院されたときは、管理者が、入院先に顔を出し出来るだけ早期に退院出来るよう担当医師と相談しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が普段の生活で必要となれば病院等への移動となるが、出来るところまでは、させて頂くようにしています。終末期には、家族の同意をいただき面倒を見させていただいています。	入居時には、重度化に向けて話し合い、書面で意向を確認し、終末期には、再度関係者と話し合い、同意書で確認している。対応が可能な自然の看取りは、受け入れる方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	当所の看護師と連絡をとり、早期に対応できるように勤めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議において地元自治会長・民生委員の方々に災害時には、協力していただけるよう話しています。年に1回避難訓練を実施しています。	年1回、消防署の指導を受けて避難訓練を実施している。さらに、近くの駐車場を避難場所と定め夜間を想定した自主訓練を、年1回行っている。食糧・水の備蓄があり、自治会や近隣にも協力を要請している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導やオムツ交換時もあからさまに言わずに行なっています。	トイレには、さり気ない言葉かけで誘導し、オムツ交換や着替えは居室の中で行い、プライバシーに配慮している。また、年長者を敬い、語気を強めたり無視をしないように努めている。	利用者のプライバシーに関する具体的な内容を学習し、全職員で周知するように期待したい。また、マニュアルも整えることが望ましい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制することは、何もなく家族との外出・外泊等も自由に行なっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を中心に各自のペースを把握し生活をお手伝いする事を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容は、ホームの方へ出張していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の団欒の中で食べたい物等を聞いて献立をたてたりして、臨機応変に対応しています。	利用者の好みを把握し、献立に取り入れている。季節の食材を使い、職員も同じメニューと一緒に摂りながら、味付けなどを話題にして雰囲気盛り上げている。一部の人は、食材の前処理と後片付け、テーブル拭きを担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三食の食事は、キチッととっていただき室内での熱中症を防ぐ為にスポーツドリンク等を飲んでいただきトイレの回数等でも気をつけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは、自分で出来る方は、自分で、介助の必要な方は、職員と一緒に必ず行なっています。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけ等により、オムツの使用を少しずつ減らせるようにしています。	一人ひとりの排泄パターンは、介護記録に時間と間隔を見やすく記録しており、全職員で共有しながら、適時誘導に努めている。2名の人は、入居後、大幅に自立改善したため見守りで支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操等を実施し、日々の食事バランスのとれた食事をだし、排泄を促せるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴を楽しみにしています。ほとんどの方が湯につかりながら「いい湯やな～」と喜んでいきます。	1週間に3回、昼の時間帯に入浴を支援している。利用者は、入浴好きの人ばかりで、毎回喜んでおり、入浴剤や季節の薬草を入れて、香りと雰囲気を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人の生活習慣に応じて一日を好きなように過ごしていただき、昼寝の時などは、他の邪魔が入らないようにしています。また、寝具等は、天気の良い日においては、毎日日干しを実行し清潔な寝具にて就寝していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員がしています。変化が見られたら、かかりつけ医に報告し、その後のことを、相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る事、好きな事を家族より聞いたり日常生活の中から見出したりして出来ることは、手伝っていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて外出し、気候に応じた散歩を実施しています。月に2回は、喫茶店に出掛けています。	ホーム周辺の田んぼ道を、日常的に散歩しながら、作物の生育を眺めたり、農作業の人と挨拶を交わしている。また、障害者が経営しているパン工房のある喫茶店へ定期的に出かけるのが楽しみとなっている。	

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状態によって、お金を所持していただいたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、自由に使えるようにしてあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	BGMをながしています。季節ごとに敷物を替えたり、テーブルクロスを替えたりしています。	玄関や居間には、季節の草花を飾り、壁には時々の行事を映した手づくり作品が飾られている。日当たりが良く、外の景色が見渡せる広い居間に、利用者全員が集まり、日中は多くの時間を、心地よく会話しながら過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は、二箇所あります。利用者の気の合うもの同士が話をしたり、テレビ番組で見たいものをゆっくりみられるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム側で準備する物は、最小限とし出来るだけ使い慣れた物を持ってきていただき、使用してもらうようにしています。	居室は、畳かベッドを選択できる。備え付けの収納タンスのほか、家族写真、手鏡、カレンダー、縫いぐるみ、時計などが持ち込まれ、居心地に配慮している。また、居室入り口には、筆書きで温もりのある厚板の表札を掲げている。	家族の協力が得られず、持ち込みの無い部屋があるので、利用者の好みや興味のあるものを把握しながら、工夫されることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間は玄関に施錠しますが日中は開けてありますし、居室の扉にもかぎは、ありません。自由に過ごしていただきますが常に職員が様子をうかがっています。建物は、平屋建てですのでバリアフリーとなっています。		